京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

（和文）トラウマ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究　　物語からモニュメントまで

（英文）Trans-disciplinary Studies of Organizing Traumatic Experiences and Memories: From Narratives to Monuments

2. 研究代表者氏名

田中　雅一

3. 研究期間

2010 年 04 月 - 2015 年 03 月（5 年度目）

4. 研究目的

なぜトラウマ(心的 外傷）なのか。トラウマの原因は、幼児のころの虐待、家庭内暴力、学校でのいじめ、暴力行為、とくに 戦争での経験、犯罪や事故、自然災害などである。本研究では、トラウマをより広い意味で苦悩（suffering）や痛み(pain)とみなす。この苦悩に対し人びとがどのような形で対峙し、克服しようとしてきたかについて 考えてみたい。この過程をここでは組織化と表現する。トラウマは一般に心理学や精神医学が対象とする問題領域であるが、組織化という過程はこれらの領域にとどまるものではない。 なお、トラウマや PTSD などの医療用語が、日常的に使われるようになって久しい。心理学や精神医学用語が普 及していった理由は、わたしたちの世界が「脱神学化」してきたことを意味している。そのような状況でト ラウマについてあえて考察することは、現代日本社会の分析にも貢献することになろう。

6. 研究成果の概要

本研究は、2010 年 4 月に発足した。その 1 年後に東日本大震災が生じた。日本におけるトラウマ元年は 1995 年の阪神・淡路大震災に発すると言われているが、3.11 後トラウマへや PTSD への関心はますます強まっている。また、自然災害だけでなく、湾岸地域、シリア、パレスチナやウクライナなど世界各地で紛争が勃発して、被害を受けた一般民衆が難民化している。幼児虐待や性暴力の報告もあとを絶たない。そんな状況で、トラウマ概念やその対処法を人文学的な視点から論じようとする本プロジェクトは、内外からも注目されてきた。この 5 年間、性暴力、セクシュアリティや戦争、軍事基地問題、沖縄戦、放射能被害

などを主題とする国際ワークショップや公開ワークショップを開催してきた。今後は、科研のプロジェクトなどを立ち上げるとともに、2 冊の論文集の公刊を目指す。

8. 共同研究会に関連した公表実績

【国際ワークショップ】「放射能汚染と被ばくに立ち向かう: 被害とその不確実性をめぐって」期日: 2014 年 10 月 11 日（土） 13:30-17:30 場所:人文科学研究所 発表者とタイトル:根本雅也 （一橋大学） 「放射線をめぐる不確実性と原爆被爆者」、 石山徳子 （明治大学） 「アメリカ合衆国の原子力問題と環境正義」 、細川弘明（京都精華大学） 「核開発と少数民族・先住民族」 、聞間元 （静岡県保険医協会） 「ビキニ核実験被害の医学的考察」 コメンテーター: スティーン智子 （アメリカ合衆国議会図書館） 竹峰誠一郎 （明星大学） 司会・コーディネーター: 中原聖乃 （中京大学）、田中雅一（京都大学）

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

2015 年度に論文を編集し、日本学術振興会の成果公開促進（学術出版）に申請する予定である。